

ICT・デジタル技術で変わる 人々の暮らしと作業療法支援

特集にあたって

スマートフォンが代表するように、情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）やモノのインターネット（Internet of Things：IoT）等のテクノロジーは私たちの暮らしになくてはならないものとなった。そして、人々の暮らしそのものを変化させている。

内閣府は、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、イノベーションから新たな価値が創造されることにより、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会「Society 5.0」を提唱し、その実現に向けて、国を挙げて取り組みは始めている。こうした時代の流れの中で、OTはどのような役割が果たせるだろうか。テクノロジーの発展により変容する作業に対して、OTがいかに対応できるかが問われている。

本特集では、さまざま分野で活躍しているOTに、その臨床の実践の中で展開している具体的なICT・デジタル技術の活用内容や作業療法に期待されるもの、そして抱えている課題について執筆いただいた。

今後ますます発展するであろうICT・デジタル技術の可能性とともに、人々の作業の変容にOTがあたり前に対応できるようになることを期待したい。今回の特集がその一つの手がかりになれば幸いである。

（小林 大作）

企画担当

小林 大作（株式会社アシテック・オコ，作業療法士）

山本 伸一（山梨リハビリテーション病院，作業療法士）

竹内 さをり（甲南女子大学，作業療法士）